



豊中市教育センター  
〒560-0033 豊中市蛍池中町3-2-1-600  
TEL 06-6844-5290  
FAX 06-6840-8127

平成20年(2008年)5月23日第31号

ん？

先日、ある結婚式の披露宴での出来事でした。

新緑に包まれた明るい会場で、挨拶、乾杯と和やかな雰囲気の中、宴は進んで行きました。和やかとは言っても、少し緊張する儀式的な場面もありましたが、それも終わり、余興の時となりました。

新郎の友人がマイクを握り、歌の披露をされたときのことです。

「本日はおめでとうございます、これからお二人で生活されるなかで、大切な袋が3つあります。」と、挨拶が始まりました。

<3つの袋？以前もどこかの結婚式で聞いたことあるな？何やった？堪忍袋、給料袋やったかな・・・>

私は、少しまたかという思いをもち、心の中でつぶやきながら続きを待ちました。

彼は間髪を入れず「以上です。歌います。」と言って、なんと挨拶が終わったのです。<ん？えーっ！結局3つの袋はなんだった？堪忍袋、給料袋はあったよな？どんな話やった？結論は？・・・>

と疑問が、次々とわきあがってきました。歌を2曲披露した後、さっさと彼は席に着いてしまいました。

私の頭の中は、“袋”、“ふくろ”、“フクロ”とぐるぐる回っていました。あまり気になるので、ケータイで、「3つの袋」を検索しました。すると『Yahoo知恵袋』でヒットし、「結婚式の恒例の挨拶、3つの袋の話」ということで、数多く紹介されているようでした。

恒例でよくある話を、多くを説明しないで疑問をもたせ、考えさせることの大切さを実感しました。彼が普通に袋の説明を語り出していたら、こんなに考えたり、調べたり、「なんで？」の思いももたなかったのではないかと思いました。それ以前に、話を最後まで聞いていたでしょうか。少なくとも、こんなにも印象に残ることはなかったでしょう。子どもたちの学びの中でも、多くの“ん？”のようなゆさぶられる体験をさせることができないものかと思っています。

「説明をしすぎない、考えさせる。」ということを実践されてこられた田尻悟郎先生のお話を聞く研修を、8月11日(月)に予定をしています。田尻先生はNewsweek誌の「世界のカリスマ教師100人」に選ばれています。

ちなみに、3つの袋ですが、『Yahoo知恵袋』で、

「人生には・・・」で始まる人生バージョンでは、【お袋】【胃袋】【堪忍袋】

「結婚生活には・・・」で始まるものでは、【給料袋】【胃袋】【堪忍袋】とありました。時として、【知恵袋】も大切？

(十河)



## 授業（保育）実践論文公募事業

本年度も授業（保育）実践論文を募集しています。先生方の授業（保育）での取り組みをまとめてみませんか。日々の実践を整理していく中で、先生方の教材を分析する力を高めることにつながります。また、若い先生方へ先輩の取り組みを伝えていければと考えています。

## 研修の充実をめざして

これまでの2年間、若手教員の育成を願って新たな研修を立ち上げてきました。さらにより一層充実した研修を受けることで、多くの先生方の指導力アップにつながることを願い、本年度と来年度については、「とよなか学びプロジェクト研修」を立ち上げました。本年度は、関西大学教授 田尻悟郎先生を招聘し、8月11日（月）に実施予定です。ぜひご参加ください。

## 研究協力員

研究協力員による研究活動が始まります。教材や授業方法について集い、研究を進めていきます。多くの先生方の参加を得てさまざまな研究成果をあげています。成果は毎年、研究協力員報告会で発表されます。また、発表の要旨は要約集にまとめられていますので、日頃の授業等でご活用ください。

## 研究会・参観等 授業づくりの一助に

教育センター6階ロビーでは、教育図書や教材の閲覧ができますのでご利用ください。先生方には貸出しも行っています。土曜日の午前中も閲覧・貸出しは可能です。ぜひお越しください。

多くの先生方の参加をお待ちしています。

研究・研修

養護教育

さまざまに学びを支援しています。

## 通級指導教室（ことばの教室）

豊中市では、小学校に在学する児童を対象に「ことばの教室」を庄内小・克明小・桜井谷小の3校に設置し、通級による言語の指導を行っています。ことばに関して気がかりなことがありましたら、豊中市教育センターまたは通級指導教室にご相談ください。

（ことばの教室の学区）

庄内小学校	克明小学校	桜井谷小学校
豊島・小曾根・豊南・庄内南・庄内西・野田・島田・千成・豊島西・豊島北・高川・北条	桜塚・大池・蛍池・原田・中豊島・熊野田・泉丘・箕輪・寺内・緑地・南桜塚・東泉丘・新田南	上野・新田・北丘・東丘・東豊中・刀根山・少路・野畑・西丘・南丘・東豊台・北緑丘・桜井谷東

## 院内学級

市立豊中病院には、桜井谷小学校と第十三中学校の院内学級があり、入院中の児童・生徒が本人の体調や治療を優先しながら、マイペースで学習しています。退院後、スムーズに元の学校に戻るよう個々の子どもに応じた学習を進めています。

\*他の医療機関に入院した場合でも、支援学校の分教室・訪問教育などがありますので、ご相談ください。

## 支援学級（詳しくはeひろば第30号（3月21日発行）をご参照ください。）

本年度より、従来の「養護学級」から「支援学級」に名称が変わっています。

情報・科学教育係では、子どもたちの「情報活用能力」の育成、「わかる授業」の実現にむけ、とよなかスクールネットの充実、デジタルコンテンツの活用や校内LAN整備などの事業に取り組んでいます。

また、「タッチ・座・サイエンス」(子ども科学振興事業)として、科学教室、親子理科講座などの実施に加えて、「キッズサイエンス講座」を企画するなど、子どもの興味関心を喚起できる催しや授業で活用できる研修を展開するなどのサポートをしています。

今年度の取り組み(抜粋)

### 校内LANが新たに15校に整備

昨年に引き続き今年も予算化されました。小学校10校、中学校5校に普通教室等へのLAN配線の整備やプロジェクタ等の整備をすすめていきます。

今後希望調査を行いますので、ご検討ください。



### 小学校に理科支援員の配置

府の事業の一環として5月以降、市内21小学校に理科支援員の配置をすすめています。小学校5・6年生の実験、観察の授業を支援しています。

府の暫定予算の関係で、7月末までの配置です。

## 情報・科学教育

科学の不思議を感じる心の育成をめざします。

## 教育相談

子どもたちの豊かな心の育成を支援します。

**教育相談の案内** (3歳半から中学生までの子どもとその保護者を対象とし、面接相談を行っています。)

- ① 平日相談 → 毎週月～金曜日 9時～17時 (初回は、木曜日午後)
- ② サタデー相談 → 毎週土曜日 9時～12時
- ③ 発達相談 → 毎月第4土曜日 9時半～11時半

### 教育相談研修の充実

教育相談研修を受講される先生方の増加に伴い、今年度は4回の実施を計画しています。第1・2回の研修に参加された先生方から、子どもたちの具体的な様子やかかわり方等、聞きたい内容を出してもらい、第3・4回では発達段階に応じた関わり方等の研修を行います。子ども理解やその対応に苦慮されている先生なども、ご参加お待ちしております。

- 第1回 5/26(月) 講演 「子どもの心に寄り添って一人ひとりの子ども理解を深める」
- 第2回 7/22(火) 講義 「気になる子どもの見立てとその支援」 臨床心理士 井上序子先生
- 第3回 7/28(月) 事例研修 「子どもを見る視点と教師の関わり方」 -幼児から小学4年まで-
- 第4回 8/1(金) 事例研修 「子どもを見る視点と教師の関わり方」 -思春期の子どもたち-

### ジュニアメイト(学生派遣)

心理学や教育学を専攻した学生等が、授業中や休憩時間等に子どもたちと直接関わってもらう活動を行っています。詳しくは、管理職を通してお尋ねください。

## 「だるまさんもころんだ」

新緑がきれいなすがすがしい季節となってきました。外遊びが少なくなった今日この頃でも、世代を超えて受け継がれる遊びがあります。そのうちの1つ「だるまさんがころんだ（坊さんが屁をこいた）」を取り上げ、私たち大人の子どもとの関わりについて考えてみたいと思います。

「だるまさんがころんだ」の呪文には、寝ずに岩壁を見守り続けて悟りを得たと言われる達磨大師の立派さを、大人から耳にたこのできるほど言い聞かされた子どもたちが、「達磨さんだって、誰も見ていないところでは寝転んでいただろう」と反発して始めたという説があるそうです。また、「坊さんが屁をこいた」についても、昔、寺院で肉食が禁じられていた頃、肉を食べると屁が臭くなる事から「坊さんなのに肉を食べた」という考察があるそうです。

日常生活のなかで、大人が言うことは「もっともなこと」が多く、それは子どもの将来に大変役立つことでしょう。しかし、子どもの立場ではどうでしょうか？「わかってはいるけど・・・」と、大人の期待に応えたい思いと「でも・・・」という反発が同時に存在しています。その反発が強いと子どもは大人の言うことを素直に聞けず、大人側も「どうして言うことを聞かないんだ！」と、お互いに不満が募ります。お互いの思いが通じ合うには、まず両者の距離を近づけることが大切です。

「だるまさんがころんだ」の遊びでは、鬼は「自分にも弱みがあり、失敗もする」という呪文を唱え、あえて目を閉じて隙を見せます。その間にこそ、参加者は鬼に近づきます。鬼を大人に、参加者を子どもに置き換えてみると、大人が子どもの近寄ることのできる隙を作り、子どもの反発を受け入れ共感することによって、子どもは大人も同じ弱みを持った人間であると感じ、大人に近づくのかもしれない。

子どもたちが反発を出せる「隙」をあえて大人が作ったり見せたりすることによって、大人と子どもの距離が近づき、信頼関係を築くことが可能となる場合もあるのではないのでしょうか。

（野村）

